

## <1歳6か月健康診査>

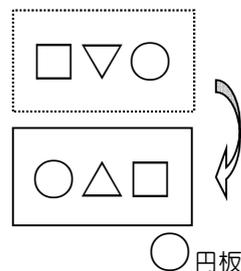
資料3-2

### ①積木の塔：積木を積み上げる課題

- ・ 扱い方（投げたり、口に入れたりするのか、積み上げるのかなど）、手元への注視の様子、つかみ方、積み上げることへの興味や目的をもっているかなどを観察する。
- ・ この課題は、相手の要求・指示に対する理解力、目標達成に向けての継起的な努力、細かい手先の操作と制御力などを総合した知的能力の発達を示す。

### ②はめ板：正位置から回転させた板に円板をはめる課題

- ・ はめ板の孔の形とはめるべき板にある孔の形に相互関係が理解されていることを調べるとともに、課題を達成するために必要な注意の集中力と持続力、正しく入ったときの達成感を調べる。
- ・ この年齢では、形をみただけですぐに正しくはめるよりも、適当にはめてみたら、たまたまうまくはまったという反応が一般的である。



◎18か月児

### ③指さし（可逆の指さし、応答の指さし）：聞かれたことに対し、応答として指さしする課題

- ・ 描かれたものを理解し、単語と連合して正しい絵を指さしによって検査者に伝える行為をみており、対人場面での応答的指示行動をみる項目である。

### ④言葉の数：有意味語（意味が明確な語）の確認

- ・ 母親（主たる養育者）に聴取する。ただし、「いくつくらい単語がしゃべれますか？」と語彙数をたずねてはいけない。「どのような言葉を使っていますか？」と具体的に単語をたずねる。
- ・ 自立語のみを語とし、付属語は語としない。

## <3歳6か月健康診査>

### ①姓名、絵の名称：姓名ともに答えるかどうかをみる・図版に描かれた絵の名称を答える課題

- ・ 姓名が言えるかどうか確認する。「太郎」など名前のみ答える場合は、「何太郎というの？」と尋ねる。姓名ともに答えるかどうか。姓は正式に言えること、名前は呼び名でもよい。姓名を聞くことで、初対面の人との対応をみる。
- ・ 絵の名称は、日常見慣れている簡単なものと名称の一致、名称の獲得と理解の程度をみる。幼児語は認めない（例：「じてんしゃ」○、「チリンチリン」×）。

### ②大小比較：大きい丸と小さい丸が描かれた図版を示し、どちらの丸が大きいか問う課題

- ・ 抽象的思考の原始形態として2つのものを比較する能力の成立をみる。
- ・ 日常的な場面で食べ物など具体物に関して大きい方を選択する場合と比べ、図版を用い言語のみの手がかりで類似した形の相対的な大きさを弁別する課題場面では、具体物ではない、状況文脈やモデルがない、などといった他の要素も含まれるため、子どもにとって難易度は上がる。

### ③円模写：円が描かれた図版を見て、模写する課題

- ・ 描画活動に対する興味とその活動能力をみる。
- ・ 鉛筆の持ち方や筆圧、図版を見て模写するという課題の理解についても観察する。
- ・ 「模写」は、即時模倣や手の巧緻性に関係している。即時模倣については、広汎性発達障害児の達成度が低い傾向にある。手の巧緻性に関しては、学習障害児で不器用な子どもが多いことが指摘されている。